

惜敗、手塚3位。



Rd.2 FUJI

第2戦目は静岡県のFUJIスピードウェイサーキット。今回新エンジンで乗り込んだ手塚強。「“ならし”もまだの状態なんです。」と不安げに語る手塚を他所に、BNR32の轟音は昨年以上に激しく、力強い。また、グッドイヤーのニュータイヤ「EAGLE RS Sport」を投入して、初の高速サーキット。手塚は、その性能をフルに引き出すため、念入りに練習走行を繰り返し、感触を確かめていた。

【1回戦5位通過】

前日の雨も止んで、単走戦スタート時のコンディションはドライ。手塚は1本目から極めて安定した走りを見せ99.9。ベスト16は、ほぼ決定的なものとしたが、やはりここは「100点」が欲しいところ。2本目、スピードは出ていたが、審査員前コーナーでミス。そして迎えた3本目、スピード、角度、迫力、どれも申し分ない走り「100点」を叩きだした！

【ベスト16 追走】

ベスト16追走の対戦相手は、1回戦12位通過のPS13を操る内海彰乃選手。手塚先行の1本目、300Rの飛び出しで手塚にポイント。続くヘアピン進入時に後追い内海にミスが出て7:3。手塚大きなアドバンテージを獲得。そして2本目、300Rの飛び出し手塚。あとは両者ミスのない走りを見せ、結果手塚の勝利。

【ベスト8 追走】

ベスト16での圧勝を弾みに、一気に優勝まで駆け上がりた手塚。ベスト8で立ちのはだかるは過去1勝1敗のAE86操る吉岡稔記選手。「今トーナメントで最大の強敵」と語る手塚は、極限まで集中力を高め追走に挑ん



だ。先行手塚の1本目、300Rの飛び出しからピッタリ付けてくるAE86。対するBNR32もミスのない完璧な走りを見せるも、ヘアピンで食い込まれ6:4吉岡。痛いアドバンテージを奪われる。後がない手塚後追い2本目、300Rの飛び出しで吉岡にミス。その後も吉岡に再びミスが出てサドンデスへ。サドンデス1回目でも勝負がつかず、サドンデス2回目へ。300Rの飛び出し、ヘアピンで吉岡に大きなミス、アドバンテージ手塚。2本目後追い手塚、300Rの飛び出しでまたも吉岡にミス。これで勝負あり、手塚に軍配が上がった！走行後、「何本走ったか分からない」と語る手塚、熾烈な戦いを征した。

【準決勝】

準決勝は、07年の最終戦FUJI1での対戦が記憶に新しい古口美範選手。前回の対戦では、古口選手に破れた手塚、ここできっちり借りを返したいところ。手塚後追いの1本目、300Rの飛び出しで古口選手にポイントを獲得するも、手塚ヘアピンできっちり詰め五分。2本目、300Rの飛び出しは五分。続くヘアピン前で、狙いすましたかのようにRPS13が動いた。コースのインをつき、なんとオーバーテイクドリ。これで勝負あり、優勝を目前に手塚は涙をのんだ…。

【惜敗…3位】

3位という成績を残しながらも、悔しさをあらわにしていた手塚。優勝出来なかった悔しさ、期待に応えられなかった悔しさ、そして何よりも勝負に負けた悔しさ。このキモチをバネに、次戦鈴鹿優勝目指して頑張ってもらいたい。



Rd.2 FUJI SUPPORT DRIVER RESULT

()内は2008獲得総ポイント

手塚	3位	19P	26P
高橋	1回戦進出	-	12P
時田	1回戦進出	-	4P
匂坂	1回戦進出	-	(-)
小師	リタイア	-	(-)
松田	リタイア	-	(-)
村山	リタイア	-	(-)



最速突入

第1戦目、驚異的なデビューを果たした、「EAGLE RS Sport」。
第2戦FUJIスピードウェイは、その優れたグリップ能力により、300Rの飛び出し、ヘアピン進入等の車速スピードが向上し、安定を見せつけた。



手塚強 BNR32 スカイライン

3位

今回、グッドイヤーサポートスタッフの誰しもが、手塚「優勝」の二文字が頭に浮かんだ。それほど、ニュータイヤとの相性、マシンの仕上がり、手塚の状態は良かった。しかし、終わってみれば3位と今一步優勝に届かなかった。D1関係者やサポートスタッフ、そしてファンの期待、そして何よりも手塚自身が待ち望んでいる「優勝」の二文字。次の鈴鹿では、表彰台の真ん中に登る姿を見せてほしい！



高橋邦明 JZX100 チェイサー

1回戦進出

開幕戦6位という成績を残し、シード選手として乗り込んだ第2戦。決勝の前日の練習走行中にクラッチ内のボルトが折れるというトラブルに見舞われ一瞬ヒヤッとさせられたが、翌朝にはきっちり修理して1回戦出場。クリップの甘さから1回戦で敗退してしまったが、その後副審を勤め、審査のポイント、他のドライバーの走りを研究と、高橋の頭の中は既に次の鈴鹿に向けて走り出していた。



匂坂晋治 AE86 レビン

1回戦進出

予選でまずまずの走りを見せた匂坂は、リザーブとして決勝進出権を獲得。その後すぐにリタイヤ者が出たため、まずはスタッフ一同ほっと安堵の声を挙げていたのが印象的だった。翌1回戦、審査員に「カッコいい」の声が飛び出すほどの300Rの飛び出しを見せていたが、審査員席前のヘアピンのクリップが甘く、1回戦であえなく敗退。次戦は昨年予選通過を果たした鈴鹿。ベスト16を目指して頑張ってもらいたい。



時田雅義 GRS180 クラウン

1回戦進出

新ルールにより、予選通過は約束されている時田。しかし、彼のプライドはそれを許さない。「実力で通過（予選）出来るところまでは結果を出す！」と語る時田は、きっちり99.70 (174km/h) で9位通過を果たす。しかし迎えた1回戦では、全くいい所を見せる事が出来ず、敗退。とはいえ、ゼロ・クラウンが始動してまだ2戦目。これから楽しみなのは間違いない。時田操るゼロ・クラウンがサーキットを暴れ回る日は、そう遠くはないはずだ。